

1 児童の体力・運動能力等に係る現状

令和5年度も、新体力テストを全学年で全種目を実施できた。その結果、1年生を除く全ての学年では、全国平均を上回る種目が大変少なく、下回る種目が多いという傾向が見られた。中でも、50m走では、全ての学年で全国平均を大きく下回る結果となっていた。

運動・生活習慣に関しては、どの学年でも運動が好きで体育の授業も楽しいと回答した児童の割合が高く、ICTを活用するなどした体育の授業内容改善の取組が功を奏していることが窺える。

一方、令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、1週間の総運動時間が1時間に満たない児童が男子で1/4、女子では1/3以上存在していた。

2 児童の体力・運動能力等の現状から分析した課題

新体力テストの結果では、1年生男子を除く全ての学年の男女で50m走で大きな落ち込みが見られたため、疾走能力を高めることが課題となっている。また、児童が持っている力を十分に発揮できるよう、新体力テストの実施方法について改善を図るとともに職員間での共通理解を深めることも課題となっている。

また、1週間の総運動時間が極めて短い児童の少なくないことも憂慮すべき点であるため、家庭と連携して児童の総運動時間を向上させることも、大きな課題である。

3 学年ごとの目標（数値目標）

<体力・運動能力>

学年	目 標
1年	・90秒間両足持久跳び 55回
2年	・90秒間両足持久跳び 80回
3年	・90秒間両足持久跳び 105回
4年	・90秒間両足持久跳び 130回
5年	・90秒間両足持久跳び 145回
6年	・90秒間両足持久跳び 155回

<生活習慣・運動習慣>

学年	目 標
1年	・運動が「好き」と回答する割合を90%以上とする。 ・体育の授業が「楽しい」と回答する割合を90%以上とする。
2年	・運動が「好き」と回答する割合90%以上を継続する。 ・体育の授業が「楽しい」と回答する割合90%以上を継続する。
3年	・運動が「好き」と回答する割合90%以上を継続する。 ・体育の授業が「楽しい」と回答する割合90%以上を継続する。
4年	・運動が「好き」と回答する割合90%以上を継続する。 ・体育の授業が「楽しい」と回答する割合90%以上を継続する。
5年	・運動が「好き」と回答する割合を90%以上とする。 ・体育の授業が「楽しい」と回答する割合を90%以上とする。
6年	・運動が「好き」と回答する割合90%以上を継続する。 ・体育の授業が「楽しい」と回答する割合90%以上を継続する。

4 児童の体力・運動能力等に応じた具体的な取組

(1) 体育授業内での取組

- ①準備運動としての手宮中央体操の取組

- ②疾走能力を高める運動の取組
低…ケンケンパ スキップ など
高…コサックランニング 全力ジャンプ など
- ③ICT機器の積極的活用
- ③90秒間持久縄跳びの取組
- ④新体力テスト後の分析とプログラム改善

(2) 体育授業以外の年間を通じた取組

- ①休み時間の体育館やグラウンドでの遊びの奨励
- ②器具を使った遊びの場の保障

(3) 保護者や地域と連携した取組

- ①指導支援ボランティアによる水泳学習およびスキー学習の充実
- ②体力記録カードによる児童の現状の周知
- ③学校だよりなどによる放課後や休日などの運動の奨励

1校1実践 90秒間持久縄跳びの取組

5 実施計画

年月日	計 画 内 容
R6年4月	・90秒間両足持久跳び記録測定(通年実施) ・グラウンド整備と学級へのボール配付
5月	・春の遠足 ・運動会
6月	○新体力テスト実施 ○全国体力・運動能力、運動習慣等調査実施
7月	・保護者への新体力テスト結果周知 ・水泳学習の実施 ・児童アンケートの実施
8月	○新体力テスト結果分析 ○体力向上改善プランの評価・改善
9月	・保護者への新体力テスト結果分析周知 ・秋の遠足
10月	・前期なわとびチャレンジ記録集計
11月	・新体力テスト特定種目の再度測定
12月	・児童アンケートの実施
R7年1月	・スキー学習の実施 ○保護者への調査結果の説明 ○体力向上改善プランの評価・改善
2月	・後期なわとびチャレンジ記録集計
3月	○新体力向上改善プランの作成

6 評価方法

(1) 体育の授業について

- ①90秒両足持久跳びの記録の変化
- ②児童アンケートの実施

(2) 学校としての取組について

- ①児童・保護者アンケートの実施
- ②学校運営協議会からの評価

(3) 望ましい生活習慣について

- ①児童・保護者アンケートの実施
- ②アンケート分析の公表と改善